

1. まず、予算編成・審議の手続きについて述べます。本予算は2008年4月1日の川根町の編入合併を控えて、まことに変則的なものでした。編入される川根の予算を議会はどのように認識して審議したらいいのか。考えあぐねておりました。ところが、市長は全く審議の必要ないものとし、何の説明もせずに専決という手段を行う予定のようでした。そこで、議会として、川根の予算の手続を問いただすと、編入合併の場合の予算立てについては何の規定もないので、県と相談をし、最低必要な経費について4月1日に市長専決で行うこととしたとの説明がありました。しかし、それでいいのでしょうか。専決でいく場合は合併協議会で予算についての手続を決めておくべきであり、何の協議もなされなかったことが異常なことであるといえます。また、川根にかかわる条例も相当数審議し議決しなければなりません。条例については地方自治法222条において予算を伴うものは確実に予算措置されることを持って制定しなければならないとされています。しかし、川根の予算についての説明もなく、審議のベースがない中で進行せざるを得ないものでした。川根については過疎地域振興策を活用した多くの箱ものがあり、その運営形態も島田市とは違うものが多くあります。それらが今後の市民感情や財政運営にどのような影響をもたらすか大いなる不安も存在します。われわれ議会人としても編入合併ということで、多少注意を向けていなかった責任もあります。しかし、気づいたその時点で、ただすことが責務と考え活発に議論をしたつもりです。そこで、議会の問いただしを受けて、本日、川根の予算に関して説明がなされました。

冒頭の副市長の陳謝に矛先を折られましたが、本来市長から陳謝すべきであると述べておきます。

さて、説明された予算はざっと島田市の10分の1で一般会計29.9億円、特別会計15億円であり、専決しようとする3か月分の予算は5億4445万円と示されました。今回示された資料は市長が確実に予算措置されると認識した段階で、ただちに議会へ提出すべき資料であり、説明の中で、その時期は2月中と認められました。したがって、2がつ29日本議会新年度予算提案時期に提出すべきであり、そのことを怠ったことは重大な瑕疵です。また、予算を伴う多数の条例については本日の川根の予算に関する説明を受けても、複数の疑問点は残ります。特に指定管理者の扱いについては契約内容も示さず不適切な処理であると認識しますが、住民サービスを停止するわけには行かないので、やむなく容認いたします。今後このような杜撰な提案は許されないことを厳に伝えておきます。

2. 島田市のみ予算について考察します。

まず冒頭に高金利で借りた債務の繰り上げ償還が計画的になされることを高く評価し、財政当局の職員の皆さんの努力に感謝します。ただし、その財源やりくりにおいて、企業債に対して直接減債基金を投入する手法には疑問を感じておりますことは付け加えて起きます。

さて、予算規模は18年度予算は30,081,000千円、19年度予算は29,529,000千円、そして20年度予算は31,963,000千円であり前年度予算に比べて8.24%の増となっている。全

国の自治体が緊縮予算を組んでいるのに比べて、大盤振る舞いのような島田市の予算です。増加の主なものは総務費約 5 億円、民生費約 6 億円、教育費約 10 億円、公債費つまり借金返済額 6 億 6 千万円の増です。しかし、増加の中味を見ると総務費では温浴施設建設費 7 億 5 千 387 万円、民生費では老人福祉センター建設 2 億 487 万 4 千円であり、教育費では総合スポーツセンター建設費 8 億 712 万 4 千円です。公債費では高金利の市債の繰り上げ償還 3 億 6 千万円を行うことと衛生消防組合の解散に伴って田代環境プラザの借金返済額が繰り出し金の項目から公債費に移項してきたためですが、約 3 億増加している。公債費を除いてはまさに箱もの行政の名の示すとおりではありませんか。

もう一つ公平性に欠けた行政を行っていることを指摘したいと思います。

16 年 3 月 9 日 当時、ある議員が自らの会派のスタンスは**市長与党**として活動していると宣言されて以来、体育館の建て替え、金谷の地域交流センター建設、足浴施設、あちが谷のグラウンドに夜間照明をすることなどが次々と動き出しています。与党宣言をしない私のひがみかもしれませんが、あまりにも唐突な予算付けや杜撰な予算計上を目の当たりにすると市政の私物化ではないかと憤りを感じます。

総合スポーツセンター建設費の総額については平成 18 年 5 月の基本方針時の予算額 25 億円から平成 19 年 11 月の基本設計段階では 34 億 7 千万円に膨張し、4 ヶ月経たずして 36 億 2 千万円に再度 1 億 5 千万円膨張しています。国庫補助金と合併特例債を活用し、一般財源はたったの 3 億 9 百万円であると説明がされているが、身の丈以上の箱ものを作った結果、維持管理費で財政破たんにつつまっている自治体が多いのは市長も財政担当者もよくご存知のことと思います。また、市民に広報で公表した予算を 1 億 5 千万も増大させて平然としていることにあきれ果ててしまいました。市民からの要望があったとしても予算制約の中で、その要望を達成しようと考えないのでしょうか。過大な投資はたとえ国庫補助金であれ、合併特例債であれ、将来の人々の重荷になることは変わりないのです。このスポーツセンター建設が、島田市財政の重石のひとつになることを懸念します。身の丈以上の投資という点では田代の温浴施設や老人福祉センターも指摘しておきます。高齢者は増加する中で、その健康を維持することが医療費抑制となり、財政への貢献は高いという主張は理解できます。しかし、維持管理にお金が係る施設は人口減少の時代にあって、将来世代がそれを支えることができるのかどうか疑問です。

また、議会のテレビ放映とインターネット上でのビデオ配信の予算付けがなされなかったことも異常なことです。

市長は予算を仲良しグループで分配しているように私には見えてきます。そんなことでは島田市は本当に地方自治を行っているのかと考えあぐねてしまいます。そこで、地方自治とは何なのか、一般的に二代表制といっている、二元的代表政治制とは何なのかと考えてみると、憲法では国民主権と位置づけられています。地方自治においては市民主権のもとに運営されるべきものとなっています。市民主権とはなんぞやとなると地方自治法で二元的代表政治制を採用して、市民が市長と議員を選挙して選ぶこととしていますが、それは市長と議会とを対立関係において市民が統制するものであると物の本には書いてありません。

なぜ対立関係に置かなければならないのかという対立関係であれば、議会は

1. 行政執行部に緊張感を与えることができる。
2. 執行部の官僚秘密体質を除去できる。
3. 行政の独善性を防止できる。
4. 行政への政策提言をすることができる。
5. 行政と住民の媒介機能を果たせる

と5つのことが書かれてあるのですが、果たして島田市議会はどうでしょう。市長は予算編成権と執行権を持ち、議会は立法、そして財政や行政の承認権と百条調査権があります。どう考えても執行権を持つ市長は優位で承認権の議会は劣位にある。その本には、必要な行政情報を議会に知らせず、予算配分によって議員を操作することは日常的な現象であるとかかれてあります。まさにその通りだと私は思っております。

なぜ、市民主権の元に監視機能を高めているにもかかわらず、市長、執行部の暴走をとめられないのか。市長に予算配分で操作されている議会では予算審議は軽んじられ、今、島田市議会のように市長及び執行部から資料すら示さず、議決、承認のみを求められる事態になっているのか。

悲しいかな、私たち議会の力量不足を認めざるをえません。

そうであったとしても、予算編成の不公正、手続きの杜撰さ、少子高齢社会の財政運営の将来不安等の渦巻く状態を一刻も早く正常な運営に導き、質素で効率的な運営に転換し、将来へこの危機を引きずらないことを願うものとしては、本予算を賛成することはできません。根本から見直すべきであり、力量不足の議員としては反対の意思を示すしかありません。2008年度の予算は川根分を含んだ、1ヶ月の暫定予算を組み、4月中に臨時議会を持って、11ヶ月予算を組むべきではなかったか。安易な専決は避けるべきであったことを重ねて述べておきます。

最後に2点指摘をしたいと思います。

一点目はこの本の一部を読みます。石原知事の副知事であった青山やすしさんの本です。石原知事は、自分が有能だから、身近に有能な人を必要としないように見える。しかし、子分的な気風の人ばかりで周囲を固めると、判断を間違える。いやでも、不愉快でも、意に沿わない理性的、知性的な人をそばに置いたほうがいい。周囲に対立があるときも、真意を見抜く努力と忍耐が必要だ。すぐに人事に反映させると取り返しがつかないこともある。

多くの局長や部長が、定年の2年前、3年前に都庁を去った。死屍累々だ。風通しがよくなるだけならいいが、実務力、技術力が落ちていることはいなめない。

今の島田市に似ていませんか。と問うておきます。

もう一点、最後に私の反対討論はお願いという形で締めたいと思います。

静岡空港が開港すると商業が流れ、島田市ではコンベンション施設、航空学園を誘致すると県知事と共に浮かれているようですが、早まらないでいただきたい。空港のために積極的に施策を打たないでいただきたい。この空港は決して黒字になることはありません。

せんから。

以上、一般会計予算の容認できない理由を述べました。